

日刊 發行編輯人 川崎文治 本社下町番地 (電話六三〇番) 印刷所 常盤毎日印刷所

常盤新聞

刊夕日四十二月八

定価 一月五圓 三月十三圓 半年二十五圓 一年五十圓 (郵税別) 廣告料 五字一圓 十字一圓 二十字一圓 三十字一圓 五十字一圓 五十以上一圓 日刊 日曜大衆 祝日ノ登 福島縣石城郡平田町長橋町三五番 發行所 常盤毎日印刷所 電話六三〇番

青年團教育會に政黨勢力の侵入

田中五郎

郡廢後に於て郡青年團聯合會及郡教育聯合會長等に土地出身の代議士が割込まんとして策動しつつあり既に實現したるものありと云ふのであるが斯の如きは地方團體に政黨勢力侵入の端を開くものであつて我等の排斥せんとする處である一體地方自治体に於ても亦各種團體に於ても政黨勢力の侵入は絶対に排斥すべき

であるが殊に教育會の如き青年團の如き純真無垢なるものに於て其の然る所以を發見するのである、然し當局としては此の點に向つて干渉制肘すべき何等の權能をもつて居らぬのであるから青年團教育會等に於ては其の會の本旨に顧み政黨的色彩の濃厚なるものはこれを排斥して他に純潔なる人を求むる様にしたいので此の點に就ては文部省或は府縣等より干渉がましく云ふことが出來ぬからこれ等團體が自覺して自治的にやつて貰いたいと思ふ

活版印刷の御用命を御願致します

明鮮美優 嚙叮速敏

所刷印日每警常 五三町橋長町平 (番〇三六話電)

見本品御覽下さい

(鐵筋コンクリート製) 井戸測、セメント管、美術品 各種(其他) 煙突、土管、下水管、下版
—出張製造も致します—

森下土管製造竈元

平町胡摩澤

賣れ行きが事實を證明する 品質聲價共に拔群の!!

磐城セメント

磐城セメント會社特約店
和洋銅鐵 釜屋商店
金物問屋 釜屋商店
磐城平町五丁目 電話九番 一三九番

△良品廉賣、勝る商畧なし△
△確實敏捷は釜屋の生命なり△

召し上れ

飛切り美味しい
マツモトの
特製カステラ
一本拾錢

ヤトモツマ

番四一二話電

磐城病院

平町田町 (電話二一四番)

(内科小兒科) 院長 市原卯太郎
(外科泌尿科) 市原卯太郎
(婦人科皮膚科) 市原卯太郎
日本醫學士 市原卯太郎
高忠男 陸太郎

辛口 チキン ソース 粉 乾物煙草
海老屋商店 平田町電話二三五番

北陸電氣工業株式會社製

カーバイト

特約販賣

福島縣平町壹丁目七番地
合資 平銃砲火藥店
電話四四一四番

移轉廣告

今般營業上都合により表記に移轉仕候に付相不變御引立の程御願申上候

水飴各種瓶詰
金世界葛糖
煉油香油製造
平町白銀町一五

伊藤商店

卸商稻葉屋

院長醫學博士 助川喜四郎
內科 醫學博士 井秀旭
小兒科 醫學博士 相澤信朗
婦科 醫學博士 大瀧潤家
小兒科 醫學博士 竹内俊造
齒科 醫學博士 池田健吉
外科 醫學博士 河合雄吉
外科 醫學博士 島田健吉
耳鼻喉科 醫學博士 松本松雄
眼科 醫學博士 松本松雄
皮膚科 醫學博士 松本松雄
泌尿科 醫學博士 松本松雄
藥劑科 醫學博士 松本松雄
藥劑科 醫學博士 松本松雄
藥劑科 醫學博士 松本松雄
藥劑科 醫學博士 松本松雄

美術表具 玉成堂

平町田町 元平陽女學校跡

城共濟院病

平町役所前電六四一

理想的簡易宿泊所

泊料 (布團寢衣も新調、風呂も有升)
並等 五十錢、特等 七十錢
附屬簡易食堂
並等 十五錢、特等 二十錢
—其他お客様の好みに應じます—

平町南町(共濟病院前)
平町南町(共濟病院前)
南へ五分間 **藤田屋旅館**

弊店の生命

一もお客本位 開店しました
二もお客本位 三浦洋服店
三もお客本位
四も五も……

お引立願ひます

平町五丁目八番地

外門 入院應需

上田外科醫院

平町 南町 電話一二九番

自轉車 音福

購入の便法あり

エバエレスト(號) 乗心持絶好
キヤビネット
日掛けや月掛等の方法に依り望みに依つては現品を前渡し致します

平町橋越小路
自轉車及 鹽野平支店
附屬品店 東京市神田區末廣町一〇

味のイロキ食堂

平町紺屋町(縣社通り)
美味評判 味のイロキ食堂
オの部電話四六〇番

濡れ衣を

着せるに忍びずと

鈴木前縣議が

狭政會と露商組合に辭表

前縣會議員、警城實業銀行專務取締役鈴木辰三郎氏は世も既に知る如く緻密にして明敏なる頭腦の所有者であると同時に寛容にして總ての

人を容れ 世の爲め人の爲めには自己を忘れて邁進する一脈の俠氣に燃ゆる稀れなる人傑である爲め其徳を慕え石城俠政會は顧問に、また常警露商組合は相談役に戴し種々會務の進展に盡力を受けて居たのである、然るに同氏が政友會の頭領株である處より

反對黨の 一部の者は鈴木氏が俠政會或いは露商組合を愛撫するは政黨上に於ける野望達成の要具たらしめんが爲めなりとの如き言を構へ故意に鈴木氏と右の團體とを絡んで種々な索強附會も甚だしき説を爲す爲め鈴木氏は自分の爲めに同團體があらぬ

噂を立て られ世の疑惑を蒙るが如き事ありては遺憾至極であるを爲し去る廿日附を以て同團體の顧問及び相談役を辭する旨の通知を發したと

福田所長來平 福島地方裁判所長福田一覺氏は濱通り視察の爲め昨日午後七時來平、直ちに湯本温泉

役員を改選

白井會長就任

縣立警城中學校同窓會員の一部が過般來會長並に役員の改選を行ひ今後の發展を圖るべく劃策中にある旨既報の如くであるが此程幹部連會合協議の結果會長に警城銀行專務取締役白井一郎氏を副會長に辯護士法學士仲里文平氏三森虎雄兩氏を推し尙幹事も關内正一、酒井清、遠藤俊一郎、諸橋元三郎諸氏の新顔に代つた

電撃死二名

同じ日の椿事

平町立町二十七志賀兵吉方岩手縣膽澤郡相去村生れ警城炭礦平發電所雜夫佐藤保太郎(三)は二十二日午後十時五十分頃同所第九槽の灰出し作業中過つて千ボルトの第四種電燈線に長さ八尺の灰出し用鐵棒をまきつけ之を取り外さんせし際電線の被覆が剝離し感電即死した、又福宜町警城炭礦は平發電所長屋居住朽木縣上

都賀郡足尾町生れ電工栗屋長作(五)は二十二日午後五時五十分頃同所機關室床下給水ポンプ室で作業中二千ボルトの高壓線に觸れ感電即死した

地獄の蓋が明か

踊り抜いた盆三日

思ひくく變装して

雨に祟られ乍らも地獄の蓋は明いたので平町の盆は例の如く大雜踏を極め十五日の廿二日に赤井、内郷、小川方面からのデヤンガラ隊は二十組からに達し、新盆の家を廻り此れに負じと又平町の若人達は色とりどりに變装して踊り狂ひ隣接町村からの人も少からず平署では係官を増員し取締を行ひ同町鎌田町遊廓は人の通行すらも困難であつたが十六日の昨夜も盆踊りは最高潮に達して非常な賑ひを見せた

盆踊の雜踏中

スリ歩く男

廿二日午後七時半頃平署に石城郡勿來町大日本炭礦佐々木三郎、平町新川町大工職三森某方徒弟新妻仙治及草野村下神谷大和田秀吉と稱する三名の

青年が 盆踊見物中何れも同時刻相前後して掴まれたと訴へ出たが佐々木の供述に不審の點あるのを他の二名は歸宅せしめ同

募集

文藝其他投稿を募集します

時より舊郡衙内に事務研究會を開く筈であるが講師は縣廳より出張し來る由



家庭欄

芥子・酢味噌
素麵は沸湯の中に入れてゆで、水の中に取つて良くさらして後目薬に入れて水氣を切つて置く、寒天は水でもみ洗ひ、細くちぎつて鍋

郡下青年の鐵腕鳴る

來月五日警中校庭にて

體育大會を開催

石城郡聯合青年團主催本縣聯合青年團體育大會は來月五日午前九時半から平町高月臺縣立警城中學校グラウンドに開催する事に決定し地元青年團にては目下夫々準備に忙殺されて居るが當日の競技種目は陸上競技(百米突、四百米突、千五百米突、一萬米突、走巾飛、走高飛、砲丸投、八百米突リレー)劍柔道相撲等で本年からは從來の弊害に鑑み職業的に練習してゐる小學校教員は参加資格がない譯で一

坑夫聯合會

盛んな發會式

日本勞働總同盟日本坑夫組同常警聯同會創立大會並に同坑夫組同高坂、綴兩支部總會は昨報の如く二十二日午前八時より石城郡内郷村内郷座に開會本部より會長鈴木文治、片山日本總同盟法律部長、同本部主事加藤

官十諸氏始め各地方の支部長約二十名、定刻出雲作氏は開會の辭を述べ續いて廣瀨定氏の経過報告及び宣言文の朗讀あり全國十四部長からの祝電を披露し演說會に移るや聴衆は會場目がけて押寄せ大雜踏を極めたが各辯士共炭坑勞働者の慘めさを述べ、團結一致を圖り交るゝ熱辯を揮つて聴衆を熱狂もじめたかくして午後二時鈴木會長の發聲で同組合の萬歳を三唱し盛會裡に散會したが本縣警察部から平山高警署警察課長佐久馬巡查部長平署から管内巡查全部の召集を行ひ更に植田四ッ倉等隣接地の應援を得

主家を逃走

石城郡好間村大字北好間字堂田旅人宿太田ツネ方雇人山形縣生れ相庭千代枝(三)は廿三日午前四時頃無断で主家を逃走したとて雇主から平署に取押方願出た

平町人事

出生

△仲町二 高橋定次郎氏三女君江
△南町一七 吉田昌弘氏長男昌人
△鷹匠町一四 松崎政隆氏長女政子
△一丁目一〇 赤津衛之助氏三男康之

婚姻

△仲町六六 叶好太郎氏(三一)石城郡赤井村鈴木タケ(三五)

人に對し嚴重取調の結果右は當時茨城縣中鄉村日棚丸炭坑第三坑良玄飯居住長野縣生れ前科一犯佐々木仁三郎(三)で

盆踊の 雜踏に乗じ前記新妻から三圓大和田から十七圓を掴摸つた旨自白に及んだが同人は本職の掴摸らしく餘罪ある見込みで引續き嚴重取調中である

緩んだ個所を 修理中落磐 支柱夫慘死

石城郡好間村大字上好間字小館古河炭坑支柱夫群馬縣生れ井口柳治(三)は去る廿一日の正午頃同炭坑坑道にて坑天井の緩みたる個所を修理せんとした際突如天磐落下し押し潰されて慘死したと

稅務主任會議 石城郡内各町村役場收入役及び稅務主任は來る卅日午前九時より舊郡衙内に事務研究會を開く筈であるが講師は縣廳より出張し來る由

宜に切り皿の上に銀籠を載せた上に四分の一宛を盛りかつら胡瓜等をつけ合せ棒狀を餘り次の芥子酢味噌を添てすゝめるのであります

芥子酢味噌 白味噌を攪り潰し裏ごしにかけ元の攪鉢に戻し酢砂糖及び芥子の灰汁を抜いた物を加へて延ばします